

2021 年度 LA 企画オンラインセミナーダイジェスト

ためになる卒論・修論エピソード ～執筆作業から息抜きまで～

事前質問への回答集

先日開催した LA セミナーに際していただいた事前質問のうち、セミナー内で回答できなかった質問や補足で回答がある質問についてまとめました。



Q1. 副指導の先生とはどういうやりとりをしていましたか。

A1. 副指導の先生が担当している授業を履修していたので、授業についてのやりとりをしていました。研究計画書に押印を頂く必要もあったので、そのためのアポ取りもしていました (LIAO)。

A2. 私の専攻 (シス情) では、副指導の先生とのやり取りはほとんどありませんでした。学期初めに提出する履修計画書に署名をもらう時と、修論発表の審査の時にお会いした程度です (OHMURA)。

A3. 学類のときは副指導 (副査) の先生とのやり取りはありませんでした。大学院では副査の先生のゼミを履修していますし、研究指導を受けることも少なくありません (WATANABE)。



Q2. 毎日やっていたことはありますか。

A1. 論文を数行だけでも書くこと、to do リストを付箋に書いて目につくところに貼ること、少しのジョギングです (LIAO)。

A2. 意識的に毎日やっていたのは、その日の研究のことを帰宅する前にノートに書いていました。内容はなんでもよくて、成功/失敗したこと・学んだこと・感想・アイデアなどを書き殴っていました。そうすることで、頭の中が整理でき、家に帰ってからも考え込んでしまうといったことが減ると思います (OHMURA)。

A3. 短い時間だけでも手を動かすか研究のことを考えるかしていました (WATANABE)。



Q3. 量的分析と質的分析を 1 つの研究で行う場合はどう目次を立てればよいですか。

A. 序章で研究の背景と問題の所在を述べて、分析方法の特性、分析方法を採用する理由、それぞれ分析によって得られる結果の予測、研究結果への貢献を言及しましょう。

書き方は、以下のように、個人的に考えてみました。
第 X 章 ○○(分析法)による○○に関する量的分析
第 Y 章 ○○(分析法)による○○に関する質的分析
第 Z 章 量的分析と質的分析結果をふまえた総合的考察

一例に過ぎませんが、とりあえず叩き台を作って、指導教員に相談しましょう (LIAO)。

Q4. PsycINFO データベースの検索のコツを教えてください。

A. LA に当該データベースを使っている者がおりませんので、図書館職員や周囲の先生・先輩に質問してみたいかがでしょうか (WATANABE)。



Q5. 社会人大学院生です。通常の大学院生は、先生の専門を継承・発展させるかたちで研究を進め、同じ土台で指導を受けたり、研究室の仲間と議論することも可能だったりと思います。ただ、私は様々な社会課題を持ち込んで研究活動をしており、先生や他の大学院生はその分野に詳しくない一方、私も例えば同じゼミ生の研究の先行研究に関しましては余程興味を惹かれない限り読むことはありません。つまり、自身のその時点での解釈を通してしか指導や議論が成り立たないのではないかととても孤独で心細く思っています。何かアドバイス等がありますか。

A. 私自身も他の研究室メンバーとは少し離れた研究テーマに従事しているため、研究室内で孤独を感じるというのは大変共感します。でも、それはあくまで研究室内だけの話で、専攻、大学、国全体と視野を広げれば、対等に議論できる研究者は必ずいると思います。学会などを通して他の研究者と話すというのは今のご時世なかなか難しいと思うので、まずは専攻内で探してみたいかがでしょうか (OHMURA)。



Q6. そろそろ卒論の準備を進めなければならないのですが、卒論執筆の全容が掴みにくいこともあってか卒論が「大層なこと」「手強いもの」に感じられてなかなか着手できないでいます。準備着手のきっかけで何かいい方法がありましたら教えてください。

A1. 直属の先輩の卒論を何本か読んでみて (ゼミ室に製本されたものが置いてあるはず)、これは凄すぎてむり~!!のものは置いといて、このくらいのものであれば私もできる! のようなものを見つけるといいのかもしれません。それから、卒論提出までのスケジュー

ルを調べて (先輩や指導教員に聞く)、卒論のテンプレをもらおうといいでしょう (LIAO)。

A2. 一度過去に提出された卒論を読んでみると良いかもしれません。それから、一度に長文を書いていくよりは、短いメモを蓄えるイメージで文章を作っていくほうがやりやすい場合もありますので、もしよければご検討ください (WATANABE)。



Q7. 論文のフォーマットについて教えてください。

A1. 各教育組織の定めたものがある場合とない場合があります。指導教員に問い合わせるのが最も確実です。ゼミの先輩に聞くのも良いでしょう。指定されたものがない場合は、修了生の論文を参考にするといいかもしれません (LIAO)。

A2. 入手できる場合はテンプレートに沿って書きましょう (OHMURA)。



Q8. 修論執筆を期日までに完成させるプロセス (執筆・文献リスト作成・研究室での進捗共有など) で、直面するかもしれない困難にはどんなものがあるのでしょうか。できるだけたくさん知っておきたいです。

A1. 私の執筆プロセスは、提出期日から逆算し、研究計画を立てた後、各章の内容を構想し、今すぐできることから順次にやっていくというものです。先行研究の収集と整理をしながら、序章から順次執筆します。調査を実施する場合は、実施計画に基づいて該当する章の執筆計画を立てます。文献リストの作成は文献を扱う章の執筆と同時に作ります。私の研究室では月一回のゼミがあり、それに合わせて発表する感じです。

直面するかもしれない困難は、書きながら資料や素材が足りなくなることです。追加収集が必要となった場合は、余裕をもって対処できるようにすると良いでしょう。私は調査が対面で実施できなくなって、オンライン実施に余儀なく変更しました。



なお、例えば博士後期課程に進学する場合、入試の際に修論が必要なので早めに執筆しなければいけないと思います。加えて、書き進めるプロセスで、例えば発表をしたときに先生方からの指摘が出て、大きな修正が必要となるかもしれません。その時は、もらった意見全てを鵜呑みにする必要はありません。慌てずに、指導教員に相談したうえで、いったい自分はどういう研究、どういう論文にしたいのかをはっきりした上で調整するといいかもしれません。自分の研究に信念をもちましょう (LIAO)。

A2. 執筆のための研究結果は揃っているとすると、執筆から提出までの流れの中で特に手間がかかるのは、図の作成かと思います。分野や論文の内容にもよるかもしれませんが、私（工学系）の場合だと、修論では40枚以上の図を作成する必要がありました。必要な作業量が多いのはもちろんですが、図というのはクオリティを上げようと思えばキリがないので、凝り性だった自分は特に時間がかかりました。他には、文献リストの作成なんかも大変だった記憶があります (OHMURA)。



Q9. 英語で論文を書くのは修論が初めてですが、書いた文章が正しいかはどのように確認をすればよいでしょうか。

A. 英語で書かれた論文執筆の本を参考にするほか、文章のネイティブチェックを受けると良いと思います (LIAO)。



Q10. 教員の指摘の仕方がきつく感じます。それをどう捉えれば楽になると思いますか。

A. セミナー内で回答済みですが、改めて申し上げますと、先生は（ほとんどの場合）研究内容で改善すべき点を伝えているだけであって、決して研究実施者の人格等を否定しているわけではないと思います。私自身他の研究者からの指摘が「きついな」と思ったことは何度かありますが、指摘内容自体は的を射ている面がありますので、より研究を深める良い種をもらったん

だたと納得しています。とはいいいながら、やはり教員との相性が合わないというケースがあることも事実です。同じゼミ・研究室の学生と話してみたりしてもいいのかもしれません (WATANABE)。



Q11. 指導教員から言われて元気になって研究が進んだ言葉、逆にこれを言われてショックで論文が止まってしまった、などについて教えてください。

A1. はじめて学会への投稿論文を書いた時のエピソードですが、条件付き掲載という結果で、査読者から大幅な修正を求められて、泣きたくなくて指導教員に「この論文を辞退したいです」と相談しました。指導教員から、「せっかく書いたので辞退するともったいない。査読者は論文を否定するのではなく、より良い論文を作るアドバイスをくれているから、その意見が絶対ではなく、参考に修正すれば大丈夫です。」と言われて、修正して再投稿したら通りました (LIAO)。

A2. まず、「言われて元気になって研究が進んだ言葉」ですが、基本的に研究に関して褒められるだけで自分は嬉しいですし、やる気が湧きます。指導教員に褒められることなんてごく稀にしかありませんが、その分嬉しさはひとしおです。反対に「ショックだった言葉」は、幸いにも自分は今まで経験したことがありません。なのでこれは想像になりますが、例えば自分の努力を軽視されるようなことを言われると精神的に負荷が大きいかもしれません。たとえその努力の方向が間違っていたとしても、積極的に取り組んだことは評価していただけたら嬉しいなと思います (OHMURA)。

A3. 指導教員から言われて元気になった言葉は思い出せませんが、普段のダメ出しや批評から親身になって指導いただいていること自体は伝わっていますので、ある意味元気が出て研究が進んだといえるかもしれません。ショックで論文が止まってしまった言葉もありませんが、研究を完全に否定されると論文執筆が止まることは容易に想像がつきますので、学生の興味関心や積極性を認めつつも軌道修正をするような言葉がもらえると嬉しいのかなと思います (WATANABE)。



Q12. どうすれば段取りの良い研究計画を立てられるでしょうか。

A1. 個人的には、まず研究にあたってやらないといけないことをリストアップして、優先順位をつけると良いと思います。そして、教育組織毎に提出期日、中間発表の期日、題目提出の期日などスケジュールがあると思いますから、それらを参考に、何月何日までどこまで研究を具体化する必要があるのかを決めると良いでしょう。例えば春学期 6 月と秋学期 10 月に中間発表会があって、題目提出は 11 月、予備提出が 12 月、正式の論文提出が 1 月と判明すれば、それぞれの時期までにやるべきことがはっきりします。先行研究の収集、調査の実施、データ収集と分析、論文本文の執筆などを当てはめて研究計画を組み立てていくといいかもしれません (LIAO)。

A2. 研究計画における段取りの良さとは、研究の各工程で生じる不測の事態をどれだけ想定できるかだと思います。不測の事態を想定するためには、何より知識が必要です。そのためには、日ごろの文献調査・学習、指導教員との綿密な打ち合わせ、研究室・ゼミ内での情報収集などが効果的です (OHMURA)。



Q13. リーディングノートの書き方に特別なノウハウがあれば教えてください。

A. 「リーディングノート」について詳しい LA がおりませんので、指導教員や先輩等に聞いてみることをお勧めします。以下、仮に「リーディングノート」が「先行研究を読みながら取るメモ書き」を意味していると想定してご回答します。特別なノウハウではありませんが、やはり先行研究で扱われている問いやメインの議論、結論を簡潔にまとめるのが良いと思います (WATANABE)。



Q14. 私は言葉がスムーズに出て来ず、普段の 2000 字程のレポートでも多くの時間がかかり、苦戦してしまいます。そのため卒論の執筆について特に字数の面で、非常に不安です。そのような困難の乗り越え方、また、その苦手意識を克服する方法などがありましたら、教えていただけたらと思います。

A1. セミナーで回答済みですが改めて回答します。もし書くこと＝論理的に文章をまとめることが苦手でしたら、まずは声を出して、話し言葉として考えていることを録音やディクテーション機能で文字化してみ、それらを材料に書き言葉に整理 (翻訳) していくのはいかがでしょうか。たくさんの字数を書くことに気せず、自分が言いたいことを伝えることをまず考えてください (LIAO)。

A2. 学類の卒業論文では字数規定があることが多く、書けるかどうか不安になって当然だと思います。一気に全部書くというのは大変なので、書きたいことについてのメモ書きを普段から書き溜めてみてはどうでしょうか。加えて、誰が読んでもわかるくらい細かく丁寧に文章を書いてみるのも良いかもしれません。自分が扱う問いや結論で主張したいことを分かりやすく説明していると、案外文字数が多くなることがあります (WATANABE)。



Q15. 修論に向け、先行文献を読んでいます。社会人のため時間が限られているため文献を読み進められませんが、どの程度先行文献を読んでからレビューを書いたらよいのか戸惑っています。アドバイスを頂けるとありがたいです。

A1. 個人的には、まず先行研究の概要を読んで、自身の研究と最も関連度の高いものから低いものの優先順位を決めて、関連度の高いものについては本文も読んで、自分の研究にとって有用な知見や課題などをレビューするといいかもかもしれません (LIAO)。

A2. どういう文脈でレビューを書きたいかに依存するかと思います。例えば、「○○を扱っている先行研究を列挙する」という文脈であれば、その先行研究論文の中の○○に関する記載のみを拾い読みしていけば

よいと思います。要するに、自分が描きたいストーリーの中でその文献がどういう役割を果たすのかを考え、それを書くために必要な情報をピックアップするように読めば効率化できます。極端な話、概要だけで十分ならば、要旨（アブスト）と図だけを読めば十分だと思います（OHMURA）。



Q16. OPAC や海外論文の取り寄せ方などを知りたいです。

A. 附属図書館のカウンターでお尋ねになるか、もしくは附属図書館のウェブサイトをご確認ください（WATANABE）。



Q17. 論文テーマの決め方や学群 3 年でやっておくべきことなどを教えてください。

A1. (1)自身の興味関心や問題意識について考える。リストアップでもマインドマップでもなんでも OK、可視化する。(2) 興味を持つものをキーワードレベルに絞って、本や論文を調べて、問題意識をもちながら読んでいく。(3) 本や論文の中で記載された課題や未解決の問題などを参考に、自身のリサーチクエスチョンを考えていくと良いかもしれません（LIAO）。

A2. 論文テーマの決め方は、指導教員やその他の状況によって様々あると思います。指導教員が進めている研究プロジェクトのメンバーに組み込まれ、半自動的にテーマが決まるケースもあれば、完全に自分で決めるケースももちろんあります。後者の場合、どうやっ

て決めたらいいか迷う方が多いかもしれません。確かに研究テーマを一から考えるのは難しいですが、基本的には「先行研究で残されている課題を解決する」というアプローチで OK です。そのためにはまず、興味がある分野・トピックを対象に既存研究を調べ、その中でまだ解決されていないことを探せば、それが研究テーマの糸口になると思います。ですので、学群 3 年生の段階では、色々な本を読んでみて、自分が興味を持てる分野を見つけるところから始めてみましょう（OHMURA）。



Q18. 分析方法はどうやって調べましたか？指導教員の先生をどの程度頼っていましたか？

A1. 研究方法は分野によって使われているものが異なる場合が多いので、最も手っ取り早いのは、先行研究を読んで、分析方法を参考にすることだと思います。指導教員とは、ゼミでの月 1 回の議論や指導があります。そのほかに、必要がある時にアポを取って研究指導をお願いする場合があります。私の場合はゼミを除いて年に数回でした（LIAO）。

A2. 分析方法が具体的に何を指すか分からないのでお答えできませんが、指導教員の先生とは、1 カ月に 1 回ほどの頻度で打ち合わせを行う程度でした。打ち合わせ内容は、1 カ月間の成果・進捗・疑問をまとめて報告し、それを基に次の 1 カ月にやることを考えるという感じでした。ですので、日常で分からないことがあれば、基本的には自分で調べ、それでも分からない場合は研究室の先輩に尋ねていました（OHMURA）。



【回答】LIAO（人間総合科学研究科 芸術専攻）

OHMURA（システム情報工学研究科 構造エネルギー工学専攻）

WATANABE（人文社会ビジネス科学学術院 人文社会科学研究群 国際公共政策学位プログラム）

企画：筑波大学附属図書館